

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-5 居住環境づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 下水道推進課長 稲田 栄 電話番号 0852-22-5932

事務事業の名称	流域下水道整備事業	
目的	(1) 対象	流域下水道利用者及び利用予定者
	(2) 意図	流域下水道利用者及び利用予定者に快適な生活環境を提供する。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・穴道湖流域下水道東部・西部処理区の下水道利用者及び下水道利用予定者の各処理区の流入水量の増加に対応するため施設・設備の整備を行う。 ・穴道湖流域下水道東部及び西部処理区内住民の快適な生活環境の実現に向けて建設事業を進めるため事業計画の申請を行う。 ・穴道湖流域下水道東部及び西部処理区内住民の快適な生活環境を継続するため、老朽化した施設の改築更新を行う。 	

2. 成果参考指標

(1) 指標名	処理人口	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		249,000	252,000	255,000	258,000	
式・定義	汚水処理施設整備構想の目標下水道普及率を基に設定	実績値	245,757	248,923	252,771	254,233		
		達成率		100.00	100.30	99.70		%
指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		0.00	0.00			
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00			
		達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	720,292	754,629
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成26年度末の目標値は255,000人に対し実績値254,233人であった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・流入水量の増加に対応するための施設・設備整備を順調に実施している。
- ・平成26年度末の汚水処理人口は、平成25年度よりも上昇しており、おおよそ目標値に近い実績値であった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・松江市では、公共下水道が概成しているが、安来市、出雲市はまだ整備をしている状況である。
- ・安来市、出雲市の公共下水道の整備状況により、今後、浄化センターの増設を検討する必要がある。
- ・東部浄化センターおよび西部浄化センターにおいて老朽化の懸念がある。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・安来市は、公共下水道の汚水処理普及率としてあと9.7%/整備する必要がある。
- ・出雲市は、公共下水道の汚水処理普及率としてあと26.1%整備する必要がある。
- ・東部浄化センターは供用開始後34年経過している。
- ・西部浄化センターは供用開始後26年経過している。

③原因を解消するための「課題」

- ・流域関連公共下水道管理者の整備計画の見直しを把握し、今後の汚水処理量を把握する
- ・東部・西部浄化センターにおいて老朽化し機能低下した施設を把握する。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・今後も流域関連公共下水道管理者である関連市と連携しながら、下水道利用予定者の増加に対応した施設・整備を進めて行く必要がある。
- ・長寿命化計画がH28年度までとなっているため、次期長寿命化計画を作成し、適切に施設更新を進めて行く必要がある。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）